

効果検証標準シート使用例（JVC協力）

特定非営利活動法人 日本国際ボランティアセンター（JVC）が ベトナムでの事業について効果検証標準シート案を用いた例

作成日	年	月	日
-----	---	---	---

日本 NGO 連携無償 効果検証シート

◆ 基本情報

国名・案件名	ベトナム北西部山岳地域住民参加型農村開発・環境保全事業
事業費	契約額 74,369 ドル
事業開始日と完了日	平成 18 年 8 月 17 日～平成 19 年 8 月 16 日
延長の有無	無
効果検証日（季節） 効果検証対象期間	平成 19 年 9 月 13 日～18 日 雨季 (事業終了より約 1 ヶ月)
事業の上位目標	対象地域の行政・住民が在来の資源を活かした持続的で環境保全型の農業・農村開発アプローチを実践し、住民の生活が改善される。
事業目的	①対象地域の住民が在来の資源を再評価し、持続的な環境保全型の農業・農村開発アプローチについて理解を深める。 ②対象地域の住民が主体的な村作りを計画・実施するための能力を培う。 ③対象地域の住民の生計が向上する。 ④郡などの行政関係者が環境保全型農村開発アプローチを理解し、住民が行う環境保全型の農業・農村開発の実践を支援できるようになる。
事業概要	ベトナム社会主義共和国ホアビン省タンラック郡内 4 村において、地域住民を主体とした村作り委員会を設立し、この委員会と共に農村開発事業を実施する。主な目的は限られた自然資源を利用した地域住民の生活改善である。具体的には 3 つの活動を実施する。①環境保全・食の安全に関する活動を通じて地域住民の環境への意識を高めることを目指す。②地域住民及びカウンターパート・スタッフの能力向上を通じて、地域住民及びカウンターパートのスタッフが継続的に生活改善に取り組むために活動の立案、運営、評価などについてノウハウを習得することを目指す。③生活改善に関する活動によって、農家の財産となる家畜の増加や現金収入向上を目指すに向けての果樹栽培や家庭菜園の充実などに取り組む。

<p>指標の設定と達成予定数値 (数値的な指標の設定が困難な場合はものさしとなる観点を複数記載)</p>	<p>(1) <直接目的></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 持続的農業を実践する世帯数 ・ 牛銀行、牛・水牛基金の牛の頭数 	<p>持続的農業の実践世帯数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 等高線農業：23 世帯→46 世帯 ・ アヒル・魚水稻同時作：91 世帯→130 世帯 ・ 幼苗一本植え：2 世帯→50 世帯 <p>貧困世帯の家畜保有</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 牛銀行（バクソン村）：30 頭→33 頭 ・ 牛・水牛基金（ナムソン村）：25 頭→28 頭
	<p>(2) <インパクト></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 他地域への波及 ・ 政策への応用 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 対象地域の他村で本事業の手法や活動が応用される。 ・ タンラック郡行政が政策の一環として住民の声を元にした活動計画の立案を実施する。
	<p>(3) <自立発展性></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 村作り委員会の運営状態 ・ タンラック郡行政によるサポート体制 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3 村の村作り委員会が機能する。 ・ タンラック郡行政スタッフによる持続的農業に関する技術的な支援が行われる。
<p>前提条件</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 対象地域の住民が出稼ぎなどで大量に村外へ流出しない。 ・ 大規模な開発事業や天災などにより、対象地域の自然資源が破壊されない。 	
<p>他のアクターとの役割分担の状況・複数年プログラムの中での位置づけ</p>	<p>平成 11 年よりタンラック郡内他村で住民参加型による生活改善事業を実施。村作り委員会を中心とした活動の実施方法が地域住民やカウンターパートから評価されていたこと、持続的農業（堆肥作成技術など）の実践者の増加や牛/豚銀行の頭数増加などの実績に基づき、事業を継続。</p>	

◎効果検証◎

◆ 検証概要

記入日（効果測定日）	平成 19 年 9 月 28 日
実施者名	JVC ベトナム事務所スタッフ
検証期間	平成 19 年 9 月 13 日～18 日
事業の総費用の変更	契約額 74,369 ドル→支出額 70,238.14 ドル (返還額 4,130.86 ドル)
指標からみた達成状況 (事業の成果)	<p>(1) 直接目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住民とのインタビュー及び会合での村作り委員会の活動報告から、持続的農業に取り組む住民の数が増加（等高線農業 23 世帯→86 世帯、アヒル・魚水稻同時作 91 世帯→135 世帯、幼苗一本植え 2 世帯→68 世帯）していることを確認。 ・牛銀行などの頭数（牛/水牛基金 25 頭→32 頭、牛銀行は 30 頭→30 頭）を確認。牛銀行については牛が死亡したため、目標値を達成できなかった。 ・目視により等高線農業などの取り組みがなされていることを確認。 <p>(2) インパクト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住民、村作り委員会、タンラック郡行政スタッフとのインタビューにより、他村の住民が本事業で紹介した持続的農業を応用していることを確認。 ・タンラック郡行政が住民の意見を元にした活動計画の立案を実施していることを村作り委員会との会合で確認。 ・タンラック郡マンドウック町の住民へのインタビューから、環境教育が推進されていること、ゴミ処理問題へ取り組みがなされていることを確認。 <p>(3) 自立発展性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域住民へのインタビューから、3 村の村作り委員会が住民と話し合いながら、活動を進めていることがわかった。また、問題が生じた場合に迅速に対応していることも確認した。 ・タンラック郡行政農業スタッフの報告から、他村で等高線農業やアヒル・魚水稻同時作の技術支援が行われていることがわかった。 ・村作り委員会及び地域住民へのインタビューから、タンラック郡行政が住民の意見を政策に反映させる努力を行っていることを確認。
備考	特になし

◆ 項目別効果検証

項目		結果	備考
有効性 (事業目的の達成状況) (「指標からみた達成状況」を基に判断)		A	事業目的は達成された。対象地域の在来の資源を利用した、環境保全型農業に取り組んでいる住民の数が増加していること、村作り委員会が地域住民の声を元に生活改善のための活動に取り組むようになったこと、環境保全型農業を通じて稲の増収と食材の多様化に繋がり、牛銀行や牛/水牛基金を通じて貧困世帯が家畜を持てるようになったこと、タンラック郡行政が環境保全型農業や住民主体の農村開発アプローチを理解し、支援するようになってきていることから、本事業の目的は達成されたと判断した。
効率性		A	事業目的は達成された。予定していた活動はすべて実施した。現地スタッフの退職などにより、実施体制を変更せざるを得なかったが、事業の進捗と質を維持することに努めた。
インパクト		A	事業目的は達成された。本事業の活動を通じて、バクソン村では住民が自ら共有林を設け、植林を行い、水源と土壌を守る活動を開始した。また、ナムソン村の村作り委員会は本事業で学んだ住民主体の活動計画立案・実施・評価・モニタリングを政府の開発プロジェクト(水路補修)に応用した。タンラック郡行政は本事業の活動(環境教育、牛銀行等)や手法(住民の代表からなる村作り委員会の設置)を郡内の他村で応用している。こうしたことから、本事業の目的は達成し、上位目標への動きが見られたと判断した。
自立発展性		A	事業目的は達成された。住民の代表からなる村作り委員会の委員が研修で学んだことを活かし、住民との話し合いを通じて現状やニーズを把握し、個々の集落の状況に適した活動を立案・実施するようになった。また、タンラック郡行政は本事業の活動の意義や手法を理解し、政策の一部、応用している。こうしたことから、今後も地域住民が立案した活動が行われ、タンラック郡行政がそれを技術的・資金的に支援していくことが期待される。
事業の妥当性		A	事業目的は達成された。環境保全型農業の実践世帯数が増加していること、タンラック郡行政が環境保全や住民主体の活動計画立案を推進し、本事業の活動や手法を取り入れていることから、妥当性は高いといえる。
その他	社会的影響 (女性、環境)、住民参加等	-	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の活動を実施する際に、村作り委員会と共に住民のニーズの把握、計画立案、実施、モニタリング、評価について頻繁に話し合いを持ち、特に女性や貧困層の参加の度合いや、不平等な事態になることを未然に防ぐことに努めた。 ・村作り委員会の委員が女性の意見を重視するようになり、不公平感が生まれないうよう、細心の注意を向けるようになった。 ・一部の集落で女性が活発に意見を言うようになった。

今後の本部活動への示唆、新規案件に特にフィードバックできる事項

--

検証資料

調査方法			
面会者リスト	名前	肩書き	所属



◆ 本部記入

今後の方向性・ 課題と改善策	本効果検証を踏まえ、今後の方向性、課題への対処方法、フィードバック情報等を記載する。
-------------------	--